

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102442		
法人名	有限会社あいか		
事業所名	グループホームあいか		
所在地	岐阜市鏡島精華2-4-24		
自己評価作成日	令和6年2月26日	評価結果市町村受理日	令和6年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102442-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム開設以来看取りを行っている。近年病院ではなく住み慣れたホームでの看取りを希望される方も多く医療を取り巻く環境の変化により施設で療養せざる得ない事例もあった。コロナも5類になったためホームでの療養が求められたり、災害支援、家族支援などホームに求められる役割も多岐にわたりますますスタッフの資質、技能の向上が求められるようになっていなかで一人ひとりのケースを大切に関わることができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年から事業継続すること21年、介護度の高い利用者も増えてきているが、管理者自身が認知症介護の経験年数も長く、勤続年数が長い職員も多い。管理者と職員の信頼関係も良好であり、利用者は、アットホームな環境の中で穏やかに暮らすことができています。職員は、利用者の日々の変化についても、長い目で見守り、利用者一人ひとりに寄り添いながら支援している。設立当初から、利用者の終末期においては看取りまでの支援を重視し、事業所で出来る幅広いケアを実践している。労務関係等も専門の担当者があり、適切に対応をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①一人一人のペースや自由を大切にする②住み慣れた暮らしに近い安らげる住まいや穏やかな雰囲気を大切にする③いつもの仲間やスタッフと一緒に暮らしの中でなじみの関係を築く④一人一人の残存能力を生かすケアを提供する⑤地域の人々や自然と触れ合いながら生活を送るを理念として掲げ事務所の見えるところにいつでも確認できるよう掲示している。	5つの項目を理念に挙げ、利用者が穏やかに暮らせるよう意識しながら取り組んでいる。勤続年数10年以上の経験豊かな職員が多く、職員同士が気持ちを一つに日々の支援にあたっている。理念は毎日のミーティングやカンファレンスで唱和し、その実践に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として近所のスーパーや喫茶店を利用していたがコロナ禍では交流がもてていない。スタッフはなじみのスーパーを使うなど引き続き交流を続けている。	コロナ禍前は、管理者が公民館や中学校に出向き、認知症についての勉強会を開いていた。町内会には加入しているが、商業地域という地域性から、地域との活動や行事での交流はあまりない。近隣住民との日常的な付き合いはある。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は対面での開催が再開できた。しかしながら3回はコロナにより開催できなかったため今年度中に再開したい。昨年度の外部評価結果についてはご家族にお知らせできた。	運営推進会議で事業所の状況、行事、研修報告など行い、参加者と質疑応答しながら、運営に活かせるよう話し合っている。地元の調剤薬局の参加は継続できているが、前回の課題であった自治会長への参加呼びかけは、まだ出ていない。	今後も、地域密着型サービスの意義を踏まえ、運営推進会議に町内役員の参加を呼びかけるなど、地域との協力関係作りに期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは介護保険課のみならず生活福祉課、保健センターなどともかわりを持ちながら取り組むことができた。	介護度の高い利用者も多く、行政担当者と困難事例について相談し、情報や指導を受けている。生活保護受給者も複数名受け入れており、生活福祉課等と連携しながら支援している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。委員会の設置はあるが現在のところ実施した例はない。玄関の施錠については運営推進会議の議題に上げるなどして意見を交換している。また入居時には施錠についてご家族より同意をもらっている。	身体拘束適正化委員会は定期的に開催している。事例の有無を確認し、検討すべき案件について意見を交わしている。リビングからは玄関が見えない建物構造になっているが、帰宅願望のある利用者の安全のために、玄関は施錠している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を2回行うことができた。またレポートを提出してもらうなどその後のフォローアップも行っている。	今年度より、身体拘束適正化委員会と併せて虐待防止委員会も開催している。研修会では、身体拘束と虐待との違いを理解し、日々の支援の中で、虐待にあたる行為を見逃さないよう全職員で共通認識を持ち、防止に努めている。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もあり担当の弁護士などと連絡を取りながら活用している。また必要と思われる利用者さんにはご家族に資源として紹介している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約はご家族ご本人に重要契約書を中心に説明し理解していただいている。十分に読むことができるよう事前にお渡しし時間をかけて読むことができる配慮をしている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け意見を伺う機会を設けている。またご家族へは面会時などになかなか来られないご家族へは電話などで状況を報告するなどし意見をいただく機会としている。	コロナ禍で始めたオンライン面会を継続しているが、利用者が独居の生活保護受給者であったり、家族が高齢であるなど、意見の発信が難しい場合もある。通信は発行していないが、行事などの利用者個々の写真を家族に送付したり、面会時や電話で要望を聞いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年9回あるカンファレンスには代表管理者が出席し職員の意見を聞くなどしている。また普段より職員とは日常的に意見交換しておりコミュニケーションをはかっている。	職員の意見や提案は、出来ることから迅速に対応し運営に反映させている。職員からは介護用品についての要望が多い。業務での気づきは、その都度管理者に伝え、意見は遠慮なく出し合える関係性ができている。個別面談は本人が希望する時に行っている。	個別面談は、職員の希望に応じて実施しているが、定期的を実施することで、職員一人ひとりが自分の意見を整理し、改めて現場に目を向けたり、意欲の向上に繋がると思われる。定期的な個別面談の実施に期待したい。
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	今年度は産休に入るスタッフがいたため就業規則の変更や体調に気遣ったシフトを組むなど職場環境を整えることができた。来年度には男性育休にも積極的に取り組んでいく予定である。	産休、育休、有給休暇など、社労士に依頼して就業規則を変更し、より働きやすい環境の整備に取り組んでいる。休憩場所と休憩時間が確保されており、外国籍職員の宗教習慣にも配慮している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を設け各自の課題に沿った研修を行っている。研修に参加できるよう休日を配慮するなど研修を受けやすい環境づくりを行っている。今年度は1名実践者研修を受けることができた。	年間の研修計画を立て、研修の受講費用の一部を負担したり、受講の為のシフトに配慮しながら、職員のスキルアップを図っている。動画研修も検討している。認知症基礎研修は全員受講済みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会などの情報提供を行い同業者との交流する環境を整えている。特定技能のスタッフへは情報交換や相談できる機関との連携をとることができた。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外国人スタッフと一緒に本を読んで日本語を教えてもらったり、懐かしい歌と一緒に楽しんだりと教えてもらう機会が多くある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望をおたずねしながらまた困難な場合はご家族からお話を伺ったり今まで生きてきた生活史などを参考にしながら思いを把握している。ご自宅に帰りたいなどの希望がある場合などはご家族と相談しながら外泊や外出支援を行っている。	入居間もない利用者は不穏になるケースが多く、落ち着くまで時間をかけて関わり、本人の気持ちを受け止めている。日頃の関わりの中で得た思いや意向は申し送りノートや介護記録に記載し、全職員が確認した上で、カンファレンスで共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの方法については3か月ごとにモニタリングを行い修正している。カンファレンスでは全員で意見を出し合い目標の修正やケアの方法の見直しなどを行っている。	今年度に入居した利用者については、家族と担当職員、ケアマネジャーで計画を立てることができた。今後、他の利用者も家族を含めた介護計画作りが出来るよう考えている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。また課題に対する取り組み、結果をわかりやすく表記する工夫を行いすぐに記録できるようにしている	利用者の状態は日々変化している。職員は、小さな事でも利用者の様子を見落とすことなくメモを取り、計画の見直しや支援の改善に繋げている。記録時には、いつでも計画との連動性を意識し、統一したケアを心掛けている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望の美容院への送迎や、買い物支援など柔軟な対応を行っている。また家族に代行して病院付き添いなどを行っている。	訪問理美容はあるが、馴染みの美容院を希望する利用者には、送迎支援をしている。また、必要な生活用品を家族に代わって購入することもあるが、家族の来訪機会と捉え、利用者と家族の繋がりを支援できるよう検討している。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で参加できるサークルなどの情報を共有しながら社会参加できる方法を考えている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは入居前の病院が継続してかかることのできるよう調整を行っている。また主治医を変更する場合には情報の共有などを行いスムーズに移行できるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を継続できるよう、往診可能とし、専門医については家族同行で受診している。訪問看護ステーションと契約しており、夜間対応もある。協力医やかかりつけ医と連携を図りながら、安心な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院時には退院カンファレンスに参加し、情報交換に努め情報の共有をし、退院後の生活がスムーズに行えるよう支援している。	入院先の医療機関とはケアマネジャーでもある管理者が対応し、退院カンファレンスに参加している。早期の退院と受け入れ体制についても話し合っている。認知症の利用者に他機関でのリハビリは難しく、退院後は事業所でのリハビリで、日常生活への復帰を支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について入居時から看取りについての説明をしている。ご家族へはホームですることリスクなども含め説明しご家族、本人、主治医と相談し支援を行っている。近年社会状況の変化から看取りを希望されるご家族も多くなってきている。	入居時から終末期における看取りまで、一連のケア方針として実践している。様々な看取り経験も多く、勤続年数の長い職員が中心となって支援している。事例をまとめ、経験を今後活かしていく指針作りを考えている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には応急手当などの訓練を行いイメージトレーニングなどを行っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は今年度も4回実施した。水害の避難訓練、夜間を想定した訓練は3月後半に実施予定している。備蓄の食品の期限などの見直しも定期的に行うことができた。	自治会の防災訓練には参加していないが、年4回、独自に夜間想定を含めた水害・地震時の避難訓練を実施している。災害時には、協力医の支援を受けることができる。近隣の薬局から災害時の協力の申し出がある。BCPIは作成中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した言葉かけや対応を行っている。とくに排せつに関してなど本人のプライバシーなどに気を付けて支援するなど留意している。	接遇研修は新人教育の中で行っている。入浴時には希望者は同性介助で対応し、排泄支援では羞恥心に配慮し利用者の尊厳を傷つけることの無いように支援している。言葉かけについても、常に利用者一人ひとりのプライバシーを侵すことなく、傾聴を心掛けている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や自己決定できるよう本人の能力に合わせた働きかけを考慮し実施している。着替えの場面や食べたいものなど本人の能力に合わせて声掛けなどを行っている。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に食事時間を配慮したり、食事の場所を選んでもらったりするなどその人の希望を大切にしている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備において野菜の皮むきなどを一緒に行ったりしながら楽しんでいる場面もある。温かい食べ物を温かく提供できるよう電子レンジを設置するなど配慮している。	近隣のスーパーで職員が食材を仕入れ、三食手作りとしている。食事作りを担当している職員は衛生面も重視した上で、利用者に満足してもらえる旬のメニューや量を考えて提供している。行事食も楽しみの一つで、定期的に計画している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた家庭食を手作りにて提供している。季節ものを大切にしている。またミキサー食やきざみ食など食事形態を工夫している。水分も定期的に補給してもらえるようにしている。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。また入れ歯の調整をしてもらったりと定期的に歯科往診をしていただき口腔内の清潔保持を行っている	全職員が口腔ケアの大切さを認識しており、毎食後、見守りによるケアや介助を行っている。口腔内を清潔に保つことで、病気の予防や摂食嚥下障害の改善につながるよう支援している。必要な場合は歯科往診も受けられる。夜間は義歯を預かり、消毒もしている。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排せつパターンを把握し定時ではなくその方にあった排せつケアを行っている。利尿剤や尿疾患なども把握しながらトイレでの排せつができるだけ行えるよう支援している。トイレの場所がわかるよう目印をつけるなど自立への支援を行っている。オムツの試供品にて心地よいオムツへの変更などを行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	汚染があった場合などには曜日時間に関係なく清潔が保たれるよう支援している。一人一人の個別浴としている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた休息の支援を行っている。お昼寝の時間を確保したり、薬に頼らない入眠支援を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関して一人一人の内服状況が把握できるようカルテの工夫を行っている。また誤薬のないよう何度もチェック項目を重ね事故の防止に努めている。	複数人でダブルチェックをし、服薬支援をしている。毎日の支援がマンネリ化しないように気を付け、飲み終わるまでの見守りと確認をしている。薬局の薬剤師が運営推進会議に参加するなど、連携が図られている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみなことを把握し気分転換が図れるよう工夫している。イベントなどを開催し歌が好きな方にはカラオケなどをしてもらうなど楽しみを工夫している。またお花づくりが好きな方には庭の手入れなどをお任せしている。	利用者の生活歴を把握し、花の手入れやカラオケ等、利用者が好きなことができる環境を作り、生きがいとやりがいを引き出している。現在は、重度化した利用者が増えてきたため、家事作業の参加も一部の人に限定されている状況にある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は外出支援はコロナの影響によりできていない状況であったが、暖かい日には玄関先で花木をみるなど工夫した。今年度はお花見を行うことができた。	コロナ禍で外出の機会が少なかったが、今年は近くの公園に花見に出かけ、気分転換を図ることができた。日常的には、五感を刺激できるよう、近隣の散歩や庭に出て外気浴するなど、気分転換を図りながら支援している。	

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族管理のことがほとんどであるが、能力に合わせた支援を行っている。スーパー、美容院への外出などでは本人管理できる場合には実施してもらうなど支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望などがあれば自由にできる環境を整えている。コロナ急増時にはオンライン面会を実施した。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では不快とならないようににのいの工夫や温度、光などを留意している。また季節の花を飾るなど心地よく生活できるような配慮を行っている。常時換気を行いコロナ対策を実施している。感染対策として低圧換気システムを導入した。	共有空間は広く、明るい。低圧換気システムがあり、快適に過ごす空間が作られ、穏やかな時間が流れている。浴室は一般個浴のみで、浴槽を跨げない利用者は家族の同意を得て、シャワー浴で支援している。玄関は、リビングからは見えない建物構造となっており、利用者の安全を守っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではリビングを中心に過ごせる居場所を提供している。2階では日当たりの良い場所にソファを置くなど心地居場所を提供している		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がこれまでの生活でなじみのあるものを使用しリラックスできる空間づくりを行っている。家族の写真を飾ったりカレンダー、風景の写真などを飾るなど安心できる環境づくりを考えている		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるようバリアフリーの室内とし安全に生活できるようにしている。またトイレの場所など混乱しないよう大きな文字にするなど工夫している		